

チーム学校時代の「21世紀型の生徒指導・教育相談」とは —アカデミックとガイダンスの統合を目指して—

「チーム学校」「働き方改革」の流れの中で、先生の業務の有効化と効率化が求められています。学校教育の土台であるスクールカウンセリング（生徒指導・教育相談）は、どう学校に役立つでしょうか？

石隈利紀（以下、石隈） スクールカウンセリングは、スクールカウンセラーも含めて、教育相談・キャリア教育などの学校内での教育活動です。先生が放課後に個別に子どもをサポートすることもあれば、授業の中での援助も含まれます。



左から、河野義章、石隈利紀

嶋崎政男 新しい学習指導要領に初めて「発達支援」が入りました。まさしく授業にキャリア教育も含まれていることがわかります。ガイダンスとカウンセリングもです。

石隈 例えば、不登校の生徒を神経症モデルで見るが多かったように思います。このモデルでは生徒の心の不安定なところを理解するには役立ちますが、限界があります。生徒の効果的な支援のためには、進学や生き方、趣味、人との関わり方などの視点も含むことが有効です。

三村隆男（以下、三村） アカデミックな部分（学習指導）とガイダンスな部分（生徒指導・キャリア形成）部分をリンクさせる取り組みが今アメリカでは非常に進んでいます。‘College and Career Readiness’（大学と就業へのレディネス形成）とっています。つまり、ガイダンスの部分で教科学習を刺激して、それをアカデミックのレディネス（準備）とするのです。こうすることで真の学力がつくとして、カリフォルニア州中心に盛んになっています。これは



左から、池場望、三村隆男

Linked Learning と呼ばれ、日本キャリア教育学会は、州立大学ロングビーチ校の専門家を招き、8月22日に早稲田大学で講演会・シンポジウムを予定しています。

石隈 今までアメリカはキャリアとアカデミックとサイコ、ソーシャルと分けてきました。これを統合することはまさにガイダンスの目指すところですよ。

三村 これからの社会で求められる人材育成をするためには、カレッジとキャリア（中等後教育を受けることと就業をつなぐ）すなわちガイダンスの統合が必要なのです。

河野義章 今までは「これを学ぶと一人前だ」というものが先にあったのではないのでしょうか。いわゆる基礎・基本です。これからは、自分の将来をみとおしながら、「自分にはこれが必要だから学ぶ」「自分はこれが学びたいから学ぶ」といった、自らの学びの選択が必要になりますね。



左から、嶋崎政男、岸俊彦、河野義章、石隈利紀

石隈 今の大学入試改革では、学びの主体性で判断するために、ポートフォリオを提出し学びたい人を合格させる枠を設ける案がでています。一定数は試験で合格させるが、そうした部分を増やす事で学びたい人が学べるようにする。

三村 いまの普通高校を再編しようという動きは、まさに「何を学びたいか」を明確にして行こうとしています。

石隈 予防か治療かではなく、子どもの生きる力の開発に包括的に取り組んでいくことが必要だと思います。問題を外部に丸投げにするという発想ではなく、スクールカウンセラーもスクールソーシャルワーカーも仲間として、予防から問題対応まで、そして『アカデミックとガイダンスを統合した』総合的な援助を、チーム学校で実現しましょう。

JSCA 企画委員会（2019/3/13）の一部から構成しました。（事務局）

出席者：石隈利紀、河野義章、岸俊彦、嶋崎政男、三村隆男、池場望、加勇田修士

於「嘉ノ雅 茗溪館」